

JA全農ETセンターニュース15年2月号

国際受精卵移植学会公表の世界の牛体内受精卵移植実施状況

今月は2001年度に牛体内受精卵移植が国際的にどれくらい実施され、また日本国内における実施例がどれくらいの規模にあるのかを国際受精卵移植学会(IETS)から公表された直近の数字を引用して報告させていただきます。何らかの参考になれば幸いです。

表1. 2001年度各地域の体内採卵・移植実績

地域	採卵頭数	移植可能卵数	新鮮卵移植数	凍結卵移植数	合計	(%)
北アメリカ	55,981	315,628	110,619	111,082	221,701	49.0%
ヨーロッパ	19,594	109,698	44,890	49,713	98,000	21.6%
南アメリカ	11,007	53,610	47,655	10,034	57,689	12.8%
アジア	10,440	80,521	14,703	39,574	54,277	12.0%
オセアニア	3,340	15,402	7,927	8,523	16,450	3.6%
アフリカ	929	5,218	2,284	2,142	4,426	1.0%
合計	101,291	580,077	228,078	221,068	452,546	100%

表2. 2001年度北米・ヨーロッパを除く体内卵移植数量トップ5

地域	採卵頭数	新鮮卵移植数	凍結卵移植数	合計	対前年
日本	10,100	14,287	39,223	53,510	増加
ブラジル	9,225	42,813	3,488	46,301	減少
オーストラリア	2,775	6,237	7,773	14,010	増加
アルゼンチン	1,782	4,842	6,546	11,388	減少
南アフリカ	830	1,980	2,121	4,101	減少

南アメリカ地域は凍結・新鮮卵の移植割合は圧倒的に新鮮卵活用が多かった。
この要因として、凍結技術がまだ安定化していないことと、牛群規模が大きいためと考えられます。

逆に、アジア地域のそれは逆に圧倒的に凍結卵活用が多かった。
この要因として、凍結技術が普及していることと、牛群規模が小さいためと考えられます。

北米・ヨーロッパ地域の凍結・新鮮卵の移植割合はほぼ50%であった。

世界的には対前年で移植頭数は5万頭減の45万頭であった。
この要因として口蹄疫・BSEの影響が特にヨーロッパで大きいと考えられています。

アジア地域のほとんどが日本の実績であり、当ETセンターの製造が国内の10%を越えております。

増産・改良のための和牛体内卵を活用したET事業ならびに乳牛改良のためのET事業が国内において、皆様と一緒に、益々発展できることを期待しております。